ねぎ言のまゝならばまばし散すな木々の紅葉」枕草紙、また源親行の東關紀行にも、ことのまゝとあり、○或説に、文德實錄に任事神とあるは別なるべし、小國神社を小國任事神社と申事、當將軍家後の書ものにありと云り、然れば文德實錄なる任事は、小國社を云べし、己等乃麻知と事任と名の似たるにつきてまがひたるなるべし、○伴信友云、按るに、この或説いかゝ、續後紀、三代實錄にも、小國は小國とあり、三代實錄に、當社は眞知神とあるこれなるべし、又按に、小國神ももしくは己等乃麻知神なるゆゑ、小國任事神とも云ふにても有べし、云々、

神位

文德實錄、嘉祥三年七月丙戌、遠江國任事神授二從五位下一、三代實錄、貞觀二年正月廿七日戊寅、授二遠江國從五位下眞知乃神正五位上一、

阿波々神社

阿波々は假字也○祭神詳ならず○西山村に在す、式社考、參考、

式社考云、日坂驛ノ東北ニアハカ嶽ト云フ高山アリ、山上ニ觀音堂アリ、其堂ノ北ニ八王子權現ノ祠アリ、コレ即當社ナラン、一説、アハ、山ノ峯ニ小社アリ、今俗ニ觀音ノ奥ノ院ト云ヘリ、コレ阿波々神社ナルベシ、此山ハ佐夜ノ中山ノ北ニ高ク見ユル山ナリ、○或人云、觀音寺ノ堂ヨリ一丁餘上リテ此社アリ、式内阿波々神社也ト古老語レリ、と云り、

東海道名所圖會云淡カ嶽ハ西山村ノ山上ナリ阿波々神社ハ淡嶽ノ高峯ニアリ無間山觀音寺下段ニアリ同社ノ

利神社

利は登と訓べし○祭神在所等詳ならず

式社考云、掛川ノ驛ノ西ニ十九首ト云處アリ、ソコニ戸神大明神アリ、コレナラン、」參考云、在二下俣村一、

城飼郡二座　並小

城飼は岐加布と訓べし、和名鈔、郡名城飼、假字上の部如し」式廿二、民部上拾芥抄、國郡部城飼、」今城東郡と稱す、

奈良神社

奈良は假字也○祭神詳ならず○奈良野村に在す、藤屋大明神と稱す、式社考例祭　月　日

栗田土滿云、奈良野村ニアリ、隣村ニ平川村ト云アリ、氏神二社アリ、共ニ春日明神ト云フ、平川村ノ平ノ字ハ、奈良トモ訓ナレバ併セ考ベシ、

比奈多神社

比祭多は假字也○祭神在所等詳ならず

式社考云、掛川驛ノ正南三里餘越テ、高天神ト云フ高山アリ、山上ニ祠アリコレナルベシ、イカニト云フニ、此山ノ麓ニ日向谷ト云フ山里アルヲモテ知ル也、○國人栗田土滿云、土方郷ノ内日向谷ト云處ニ寺アリ、鎮守ノ小社アリ、コレニヤ、」參考云、在二上土方村一、